

大学生の就職内定率は、3年連続アップ！

前年同期比 2.3 ポイントアップの 68.1%

平成 18 年 11 月 旺文社 教育情報センター

文部科学省（以下、文科省）および厚生労働省（以下、厚労省）はこの程、大学・短大等の就職内定状況を発表した。それによると、来春卒業予定で就職を希望している大学生の就職内定率（以下、内定率）は、10月1日現在で 68.1%（前年同期比+2.3 ポイント）と、3年連続アップしたことが判明した。

〈概況〉

大学生の内定率は、15年度の 60.2%を底に3年連続アップして 68.1%まで回復。これは同時期調査を開始した8年度とほぼ同じレベルである。17年度に過去最大の改善幅（+4.5 ポイント）を記録したが、18年度はそれより+2.3 ポイント上昇し、内定状況の本格的な好転が伺われる（図1参照）。一方、17年度はダウンしていた短大女子も+3.4 ポイントの 33.0%まで回復したものの、いまだ低水準に留まっている。

今回の発表は途中経過であるが、最終的な就職率は17年度（95.3%）を確実に超えるものとみられる。景気の回復に加え、「団塊の世代」の定年退職が本格化する「2007年問題」に備え、企業側の採用意欲の高まりによるものとみられる。

大学生の内定率を男女別にみると、男子は 69.6%（前年同期比+1.5 ポイント）、女子は 66.4%（同+3.5 ポイント）。文理別では、文系が 67.4%（同+2.2 ポイント）に対し理系は 71.7%（同+3.3 ポイント）。女子と理系が健闘しているといえる。設置者別では、国公立が 70.3%（同+4.0 ポイント）、私立が 67.5%（同+1.9 ポイント）と、国公立と私立の内定率の差は広がった。地域別では、関東の 71.2%（同 1.3 ポイント）を除き、全国的にアップしたが、中国・四国 59.1%（同+8.3 ポイント）、近畿 73.9%（+6.0 ポイント）、九州 60.2%（同+5.7 ポイント）の大幅な改善が目立った。

なお、各調査結果の詳細については、以下の集計表をご覧ください。

最新の厚労省「10月月例労働経済報告」では、景気は回復しているとし、雇用情勢は厳しさが残るものの、改善に広がりが見られるとしている。有効求人倍率も上昇傾向のようだ。このような経済の概況を反映し、19年度大学入試においても、「経済・経営・商系統」は人気を継続しそうだ。

<文科省・厚労省の調査概要>

○調査依頼先

文科省・厚労省が設置者・地域等を考慮して抽出。大学 62 校（国立 21 校、公立 3 校、私立 38 校）、短大 20 校、高等専門学校 10 校、専修学校 20 校、合計 112 校

○調査対象人員

大学・短大・高等専門学校……計 5,690 人、専修学校……560 人、計 6,250 人

○調査方法・内容

各大学等において、所定の調査対象学生を抽出した後、電話・面接等の方法により、性別、就職希望の有無、内定状況につき調査を実施。

○調査時期

平成 18 年 10 月 1 日、12 月 1 日、19 年 2 月 1 日、4 月 1 日の 4 回実施

平成 18 年度

大学・短大・高等専門学校卒業予定者の就職内定状況調査（10 月 1 日現在）

* 調査対象 = 大学 62 校、短大 20 校、高専 10 校の計 92 校

* 就職内定率 = 就職希望者に対する現時点での内定者の割合。

* 前年度就職率 = 平成 18 年 4 月 1 日現在調査の前年度卒業学生の就職率。

* カッコ内は前年度同期調査からの増減値（+ は増加、 - は減少）。

[全 体]

区 分	就職希望率	就職内定率	前年度就職率
大 学	74.2% (0.9)	68.1% (+2.3)	95.3%
国公立	52.4% (+1.1)	70.3% (+4.0)	94.4%
私 立	85.0% (1.6)	67.5% (+1.9)	95.5%
短 期 大 学	78.7% (2.6)	33.0% (+3.4)	90.8%
高 等 専 門 学 校	63.3% (+12.5)	95.7% (+2.3)	96.7%
合 計	73.9% (1.3)	66.4% (+4.1)	94.8%

[男 子]

区 分	就職希望率	就職内定率	前年度就職率
大 学	68.7% (2.2)	69.6% (+1.5)	95.5%
国公立	44.0% (0.5)	71.4% (+1.7)	95.3%
私 立	82.0% (2.5)	69.1% (+1.4)	95.6%
高 等 専 門 学 校	63.3% (+12.5)	95.7% (+2.3)	96.7%
合 計	68.1% (1.9)	72.7% (+3.8)	95.6%

[女 子]

区 分	就職希望率	就職内定率	前年度就職率
大 学	81.9% (+0.9)	66.4% (+3.5)	95.0%
国公立	65.7% (+3.8)	69.2% (+6.8)	93.5%
私 立	89.1% (0.1)	65.4% (+2.3)	95.5%
短 期 大 学	78.7% (2.6)	33.0% (+3.4)	90.8%
合 計	81.2% (+0.1)	59.7% (+3.8)	94.1%

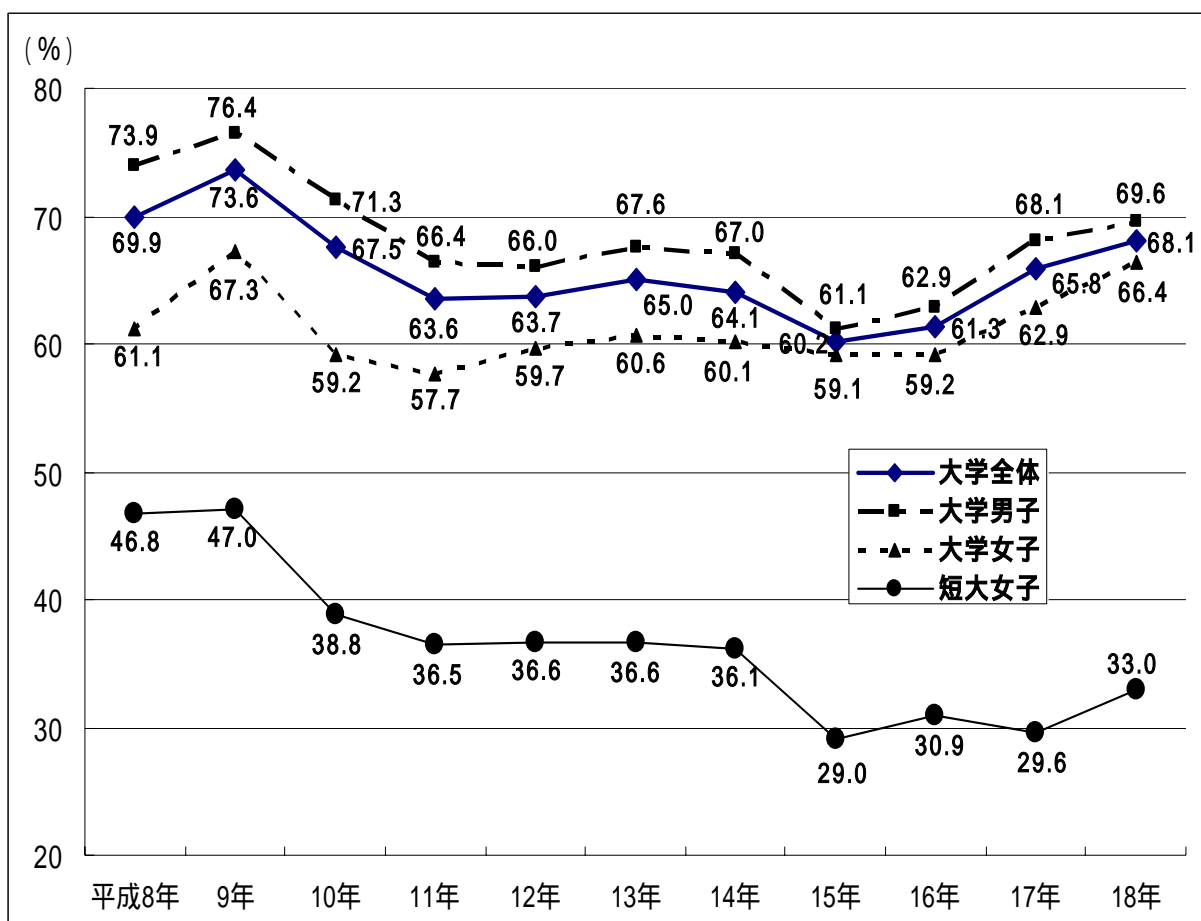
[大学：文理別就職内定率]

区 分	文 系	理 系
大 学	67.4% (+2.2)	71.7% (+3.3)
国公立	70.5% (+2.4)	69.9% (+7.3)
私 立	66.7% (+2.2)	73.1% (+0.7)

[大学：地域別就職内定状況]

地 域	就職内定率	地 域	就職内定率
北海道・東北	60.1% (+3.0)	近 畿	73.9% (+6.0)
関 東	71.2% (1.3)	中国・四国	59.1% (+8.3)
中 部	66.4% (+0.4)	九 州	60.2% (+5.7)

◆大学・短大卒業予定者の就職内定率（10月1日現在）の推移◆ (図1)



平成 18 年度

専修学校卒業予定者の就職内定状況調査（10月1日現在）

* 調査対象 = 20 校（560 人）

* 内定率 = 就職希望者に対する調査時点での内定者の割合。

* 前年度就職率 = 平成 18 年 4 月 1 日現在調査の前年度卒業学生の就職率。

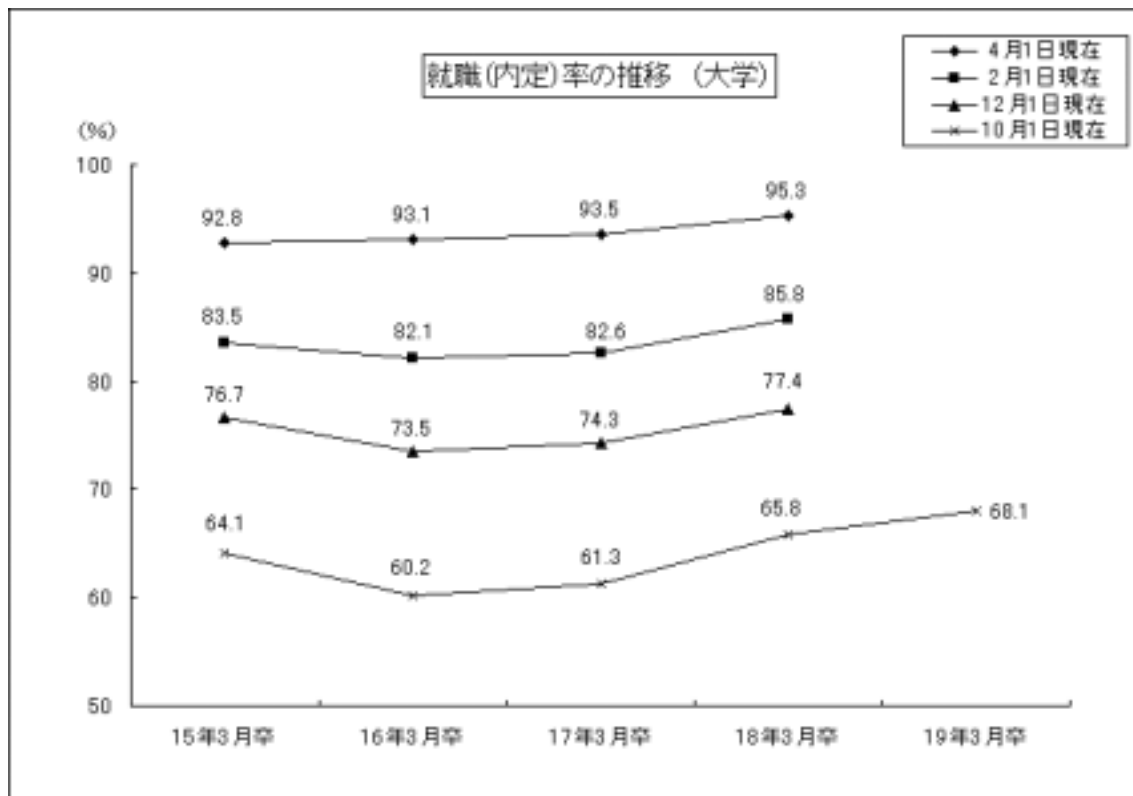
* () 内は、前年度同期調査からの増減値（+ は増加、 - は減少）。

区 分	就職希望率	就職内定率	前年度就職率
全 体	94.1% (- 0.2)	46.9% (+ 7.7)	91.8%
男 子	94.1% (+ 1.3)	50.2% (+ 11.4)	92.4%
女 子	94.1% (- 1.6)	43.8% (+ 4.2)	91.2%

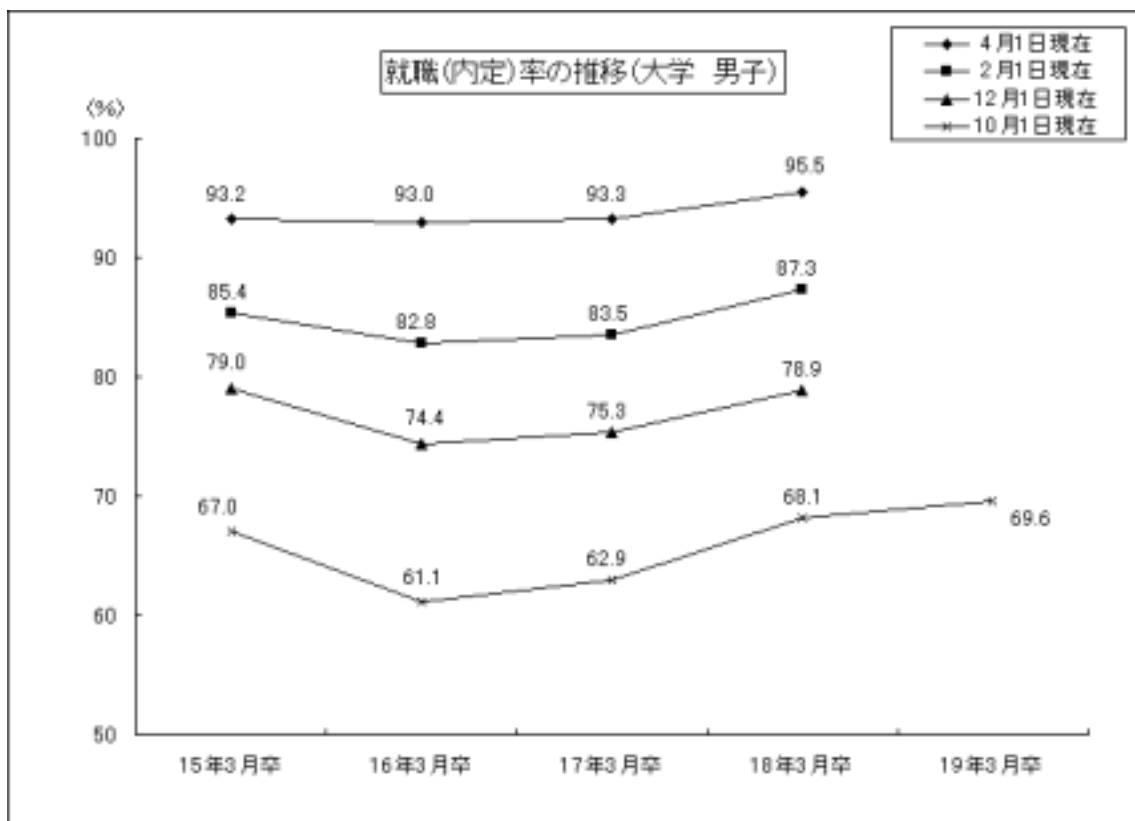
現時点での専修学校の内定率が大学・高専と比べて低い要因としては、短大卒業者と同様に専修学校卒業者の就職に当たっては、各種の資格試験が必要となる場合があり、試験によっては実施時期が学年末に行れるなどの事情があると考えられる。最終的には、前年度就職率を超えるだろう。

今後、18 年 12 月 1 日、19 年 2 月 1 日、4 月 1 日と今回同様の調査が行われるが、以下、(図 2) ~ (図 6) まで、年度内におけるその推移をグラフに示した。

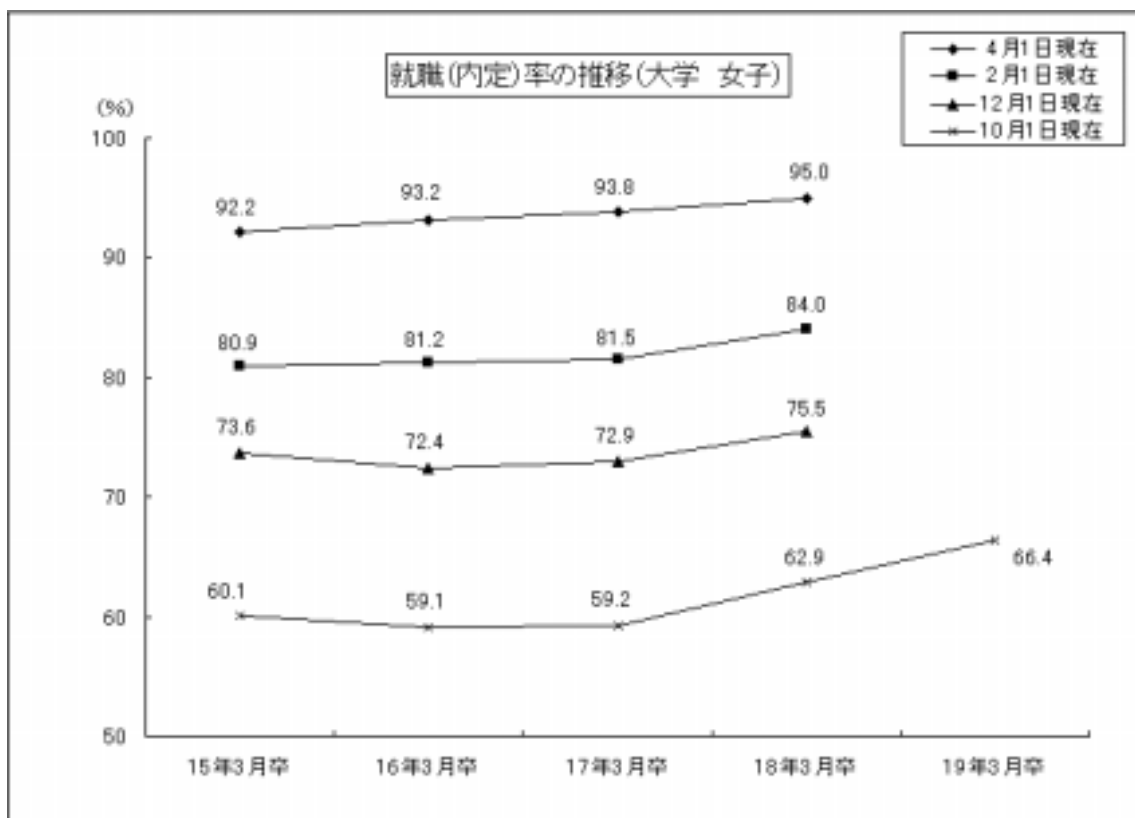
(図 2)



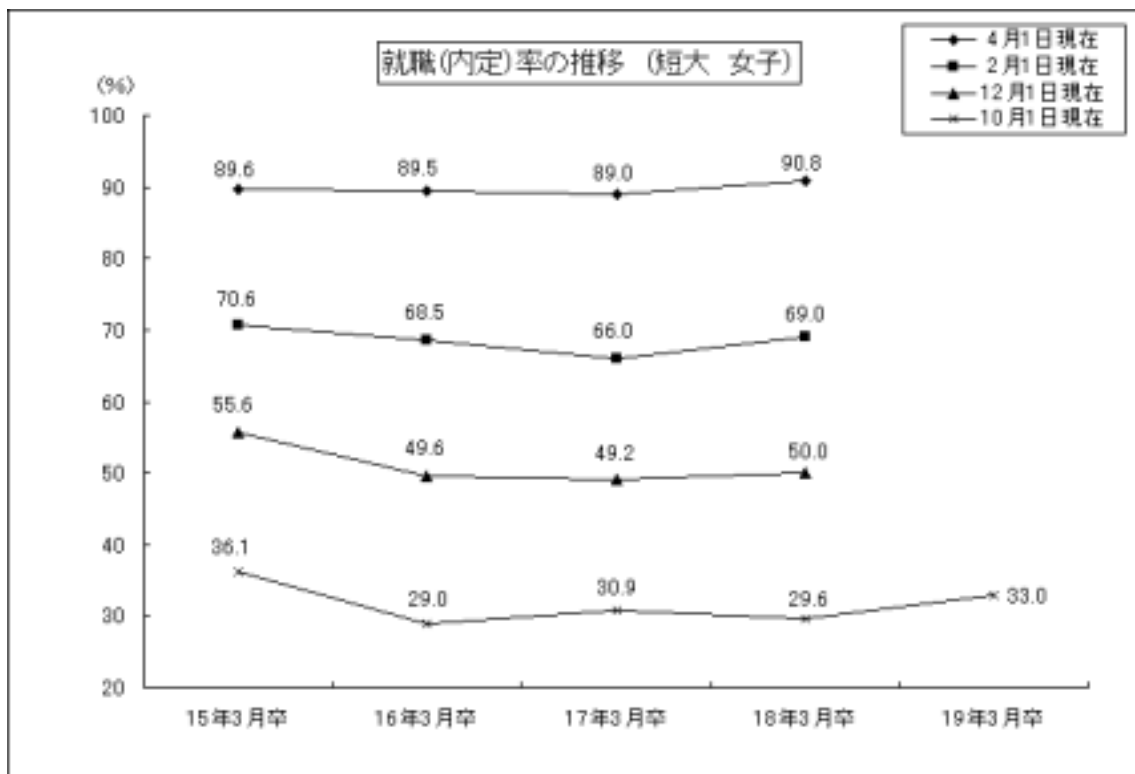
(図3)



(図4)



(図5)



(図6)

